

別にあってもいいではないか

三月六日 金曜日 別にあってもいいではないか

朝、あの子がバス停のベンチに珍しく座っていた。それをじっと見る僕だった。

本日、臨時朝礼あり、校長が来年度から替わるそう。今の補導部長のアラール神父様がなると言う。

別に替わったからと、僕らにどう関係するのだろうか。

それよりも、高校三年になった時の英語の先生が誰になるかのほうが、僕は知りたい。進学にえらく影響を受けるから、三年後のことだが。

今日は中学最後の葉山ちゃんの授業がある。なかなか愉快そうな社会の時間だった。

と言うのは、僕は、技術のオームの法則の実験レポート作成で、葉山ちゃんの授業の時間中、内職していたから、どんな冗談を言い合っていたのか、わからない。

時々、皆がドオオと笑い出して、手を止め、まわりを見渡す僕だった。

この宿題、高田と植村と僕の三人での共同レポートであった。僕が忘れてた為に、まことに二人に悪い。

昨日は、暇だ暇だで、一日が終わったが、やること忘れて、暇だと言っていた自分が馬鹿に見える。